

1. 科目名 (単位数)	生活 (幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3383 SJMP3283						
2. 授業担当教員	沼澤 清一								
4. 授業形態	講義、実習、グループ学習	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	教科「生活」の新設から今改訂までの学習指導要領の変遷について学ぶとともに、新学習指導要領の目標や内容、基本的方針など理解を深め、幼児期から児童期へのスムーズな移行を意図していることに気付き、「遊び」「基本的な生活習慣」を基にその連関について考察する。そして、生活科学習内容項目について理解したうえで具体的な教育課程や指導案展開の活動事例を構想する。さらに、グループワークやディスカッションの学習や実践的体験活動を通して子どもの気づきを大切にした教師側の声の掛け方や支援・地域環境や幼児・児童等の発達段階に応じた生活科教育のあり方を考え、それらの学習を基にして、教科「生活」を横断的・系統的視点から他教科等との関連・総合学習との関連・幼児教育との関連について学んでいく。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程における生活科の位置、子ども観、生活科の目標、学習内容について理解し、説明することができる。 2. 具体的な体験学習を通した生活科学習のあり方について理解し、説明できる。 3. 生活科の指導計画や活動展開について構想し、表現することができる。 4. 生活科と幼児教育の連続や関連性について具体的に考えることができる。 5. 総合的な教科としての特性を理解し、説明できる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【課題レポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の1～2を課題レポートとする。 <p>課題1：生活科の学習指導の特質について考察する。</p> <p>課題2：「はてな？カード」</p> <p>【振り返りシート】「日常の学習状況」に加味する。</p> <p>講義の終了後、講義によって何が解決され、何が解決されなかったのか、また、自分自身はどのような考えを持ったのかなどについてまとめ、講義終了の翌日までに提出する。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	教科書『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 生活編』 文部科学省								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活科の目標や内容、特徴を理解できているか。 2. 生活科の目標や内容、特徴を理解した上で、自分なりの意見や考えを表現できているか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極性 (発言等)</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>2 日常の学習状況 (出席・提出物)</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート (中間・期末)</td> <td>総合点の 50%</td> </tr> </table>			1 授業への積極性 (発言等)	総合点の 20%	2 日常の学習状況 (出席・提出物)	総合点の 30%	3 課題レポート (中間・期末)	総合点の 50%
1 授業への積極性 (発言等)	総合点の 20%								
2 日常の学習状況 (出席・提出物)	総合点の 30%								
3 課題レポート (中間・期末)	総合点の 50%								
12. 受講生へのメッセージ	生活科は、小学校入学期の児童にとっては、幼児期から児童期へのスムーズな移行を図るために重要な教科であり、他教科との合科の中で中核となる教科と位置づけられています。幼児期の活動を通しての学びを広げ・深めながら子どもに「学ぶことの楽しさ」を実感させる指導を身につけましょう。								
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション 授業者としての意識改革：「教える」とは「カタツムリの発表」の授業記録をもとに子どもの視点から捉える。	事前学習	自分の受けてきた授業 (生き物教材) での学習内容・方法について確認しておく。						
		事後学習	自分なりの授業観についての考えをまとめる。						
第 2 回	気づく力を育てる授業づくりとは アサガオ栽培の実践から生活科教育のあり方を考える。	事前学習	アサガオの栽培について教材提示・指導方法について確認しておく。						
		事後学習	生活科について教材観・指導観の視点から自分の考えをまとめる。						
第 3 回	教育課程における生活科の位置づけと生活科の単元構成について小学校学習指導要領の変遷から考える。	事前学習	学習指導要領解説を読んでくる。						
		事後学習	現代の子どもを取り巻く環境について復習する。						
第 4 回	生活科の学習内容 2 年間の学習内容、教科書の構成について学び、幼児教育の視点から継続性について考える。	事前学習	学習指導要領解説の内容項目を読んでおく。						
		事後学習	学習内容のまとめを行う。						
第 5 回	学習指導要領から① 教科目標・教科目標の趣旨について学ぶ。	事前学習	学習指導要領解説を読み返しておく。						
		事後学習	学んだことについてまとめておく。 学習指導要領を読み返しておく。						
第 6 回	学習指導要領から② 生活科の内容構成・教材研究、資質・能力 3 つの柱につ	事前学習	学習指導要領を読み返しておく。						
		事後学習	新旧の比較を思い出し、現代に求められてい						

	いて学ぶ。		る学びのあり方について考察する。
第7回	小学校入学期における生活科の位置づけ(1) 小一プロブレム問題から見える入学期の児童対応における生活科の位置づけを把握する。	事前学習	自分の経験を踏まえながら小学校入学期の児童の姿についてまとめておく。
		事後学習	小一プロブレム問題について説明できるようにまとめをしておく。
第8回	幼保小連携について 連携して子どもの育ちを育むことの意義とその方法について学ぶ。	事前学習	幼保と小学校での環境の違いについて自分の子どものころを思い出してまとめておく。
		事後学習	幼保小連携の意義と方法について説明できるようにまとめておく。
第9回	教材開発 「はてな？」カードの作成についての視点を話し合う。	事前学習	子どもの時に不思議だなと思った物について、いくつか思い出しておく。
		事後学習	カードの作成について、フィールドワークなどを検討する。
第10回	直接体験を通して生まれる子どもの気づきを導くための教材開発の視点を学ぶ。	事前学習	はてなカードの教材について構想を練る。
		事後学習	はてなカードの作成について検討する。
第11回	生活科の学習における言語活動の導入 「書く」「話す・聞く」の活動をどのように取り入れるかについて、実践記録を基に交流を通して考える。	事前学習	言語活動と生活科の関わりについて、自らの経験を基にまとめておく。
		事後学習	幼児教育と生活科のつながりから言語活動についてまとめる。
第12回	幼児教育における基本的な生活習慣の確立と生活科学習の連続性 生活科につなげる幼児教育のあり方、幼児教育を生かした生活科のあり方について考察する。	事前学習	幼児教育と生活科の繋がりについて考えておく。
		事後学習	幼児教育と生活科学習の連続性について、「基本的な生活習慣の確立」の視点からまとめておく。
第13回	「はてな？」カードの発表	事前学習	自分の経験を踏まえながら幼児教育での幼児の姿についてまとめておく。
		事後学習	友達の発表から学んだことを振り返りシートに書いて提出する。
第14回	「はてな？」カードの発表	事前学習	発表内容をまとめておく。
		事後学習	発表を振り返り、まとめの課題2を作成する。
第15回	まとめ 生活科と幼児教育の関連について	事前学習	これまでの授業を振り返る。
		事後学習	生活科と幼児教育の関連についてまとめておく。